

B-1 グランプリ in 北九州への来場者の評価および 開催に伴う経済波及効果に関する研究

南 博

- I はじめに
- II B-1 グランプリ in 北九州について
- III B-1 グランプリ in 北九州への来場者の評価
- IV B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への経済波及効果
- V おわりに

<要旨>

本研究は、2012年10月に北九州市で開催されたB-1 グランプリ in 北九州において実施した来場者アンケートの結果等をもとに、当該イベントに対する来場者の評価と、当該イベント開催に伴う開催地（北九州市）内の経済波及効果について分析したものである。当該イベントに対する来場者の満足度は高く、また開催に伴う北九州市内の経済波及効果額は約26.5億円と推計でき、地域に好影響を与えたイベントであったと評価できる。今後は開催経験を活かし、より一層地域の各主体が連携したまちづくりの強化が求められる。

<キーワード>

イベント評価 (event evaluation)、経済波及効果 (economic impacts)、アンケート調査 (questionnaire)

I はじめに

1. 研究の背景と目的

地方自治体が政策として各種イベント開催に直接あるいは間接的に関わる目的としては、開催に向け地域が一体となって取り組むことによる地域活力の向上や人的ネットワークの強化、また、開催に際して地域の情報を広く発信する機会の増加、開催に伴い自治体内外から多くの人々が訪れる事による地域経済の活性化など、多様な事項が考えられる。民間のまちづくり団体においても、同様の目的で各種イベントを開催する事例は多いものと考えられ、こうした公共性の高い目的が無くては、イベント開催に対し多くの市民からの理解・協力を得ることは困難であろう。

北九州市では、2012年10月20日および21日に、近年日本において大きな関心を集める大イベントとなったB-1 グランプリ¹⁾の第7回大会(B-1 グランプリ in 北九州)が開催

された。開催地における都市政策の観点からは、北九州市での開催目的は「都心部のにぎわいづくりと北九州市の魅力発信」²⁾と位置づけられる。北九州市内の多くの市民・企業や行政が関わって実施されるイベントであるため、それに対する評価や開催効果の測定を客観的に行うことは、今後、北九州市あるいは他都市において同種のイベントを開催する際の政策決定の参考になると考えられ、また行政評価の観点からも重要である。

そこで本研究においては、開催地等における今後のまちづくりに B-1 グランプリ in 北九州の経験を活かしていく観点から、B-1 グランプリ in 北九州に対する来場者の評価および開催に伴う北九州市内への経済波及効果を把握・分析することを目的とする。

2. 既往研究の状況と本研究の特色

イベントの評価について多様な研究が行われている中、B-1 グランプリの経済波及効果について一次情報³⁾をもとに推計した研究としては秋吉(2012)が挙げられる。秋吉は2011年に開催された B-1 グランプリ in 姫路、および支部大会として開催された近畿・中国・四国 B-1 グランプリ in 姫路における経済波及効果を推計している。その他、グルメイベント等に関する経済波及効果については総務省(2011)や全国のシンクタンク等が推計した事例が見られる。これらでは、一般的な経済波及効果の推計と同様、産業連関表を用いた手法が用いられている。一方、来場者によるイベントへの評価については、B-1 グランプリについては論文としてまとめられたものは見あたらず、B-1 グランプリ in 姫路実行委員会(2012)のように単純集計結果が図表で示されているにとどまる。

本研究では、精度を高めた推計手法等を用いる点に配慮するが、分析・推計手法については新規性を求めないこととする。ただし、B-1 グランプリ in 北九州の経済波及効果に加え、来場者による評価を併せて分析・考察することにより、大規模集客型のイベントの効果を総合的に明らかにする点に独自性があるものとする。

なお、B-1 グランプリ in 北九州において、筆者は主催者である B-1 グランプリ in 北九州実行委員会事務局から依頼を受け、公式「来場者アンケート」等を実施した。本研究はその結果に基づいたものである。

3. 研究の構成

研究の目的に基づき、本研究は、来場者アンケート結果の分析を行う「B-1 グランプリ in 北九州への来場者の評価」、および来場者アンケートの結果や各種データに基づいて推計する「B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への経済波及効果」の二つの内容で構成する。

なお、これら二つの分析を行う前に、B-1 グランプリの概要、あるいは B-1 グランプリ in 北九州の開催概要について簡潔に触れることとする。

Ⅱ B-1 グランプリ in 北九州について

1. B-1 グランプリの特色⁴⁾

B-1 グランプリの正式名称は、当初は「B 級ご当地グルメの祭典！B-1 グランプリ」であったが、第 7 回北九州大会の前後から「ご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1 グランプリ」が用いられている。運営は一般社団法人 B 級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（通称：愛 B リーグ。以下、「愛 B リーグ」と言う。）によって行われており、2006 年 2 月に八戸市で第 1 回が開催され、以降、年 1 回、全国各地で開催されている（表 1）。また、全国各地の支部単位での大会も 2011 年から実施されており、北九州市では 2011 年 3 月に九州支部大会が開催されている。なお、2012 年現在、各大会の主催は愛 B リーグと、開催地の各種団体・企業・行政などで組織される大会実行委員会の共同主催で行われ、開催には多くの市民ボランティアが関わっている。

B-1 グランプリの理念等について、愛 B リーグ専務理事を務める俵慎一氏は、「B-1 グランプリは“グルメイベント”ではない。食べ物を提供するが、食べ物だけを売るのではなく、まちを売る“まちおこしイベント”である。通常のグルメイベントでは“出店者”は飲食店や企業であるのに対し、B-1 グランプリの“出展者”はまちおこしに取り組むボランティアが中心であり、飲食店や企業は“出店”することはできない。また B-1 グランプリは集客を目的としたイベントではなく、まちおこしのお披露目の場として現地⁵⁾に行ってもらうための壮大な仕掛けである。」[俵、2011：19-20]と述べている。つまり、地域資源である B 級ご当地グルメ⁶⁾を活用し、料理を通じて全国各地の PR や活性化を図ることを理念・目的としている。なお、イベントへの集客が目的とはされていないが、大会開催地への経済波及効果が大きくなるような運営上の工夫⁷⁾は行われている。

B-1 グランプリは全国各地の「まちおこし」を目的とし、開催に際しても開催地の多様な主体が連携して取り組む性格を有していることから、地方自治体の政策との親和性は高いものと言えよう。

表 1 B-1 グランプリの開催状況（2013 年 1 月現在）

回	開催年月日	開催地	出展数	来場者数
第 1 回	2006 年 2 月 18、19 日	八戸市（青森県）	10 団体	1.7 万人
第 2 回	2007 年 6 月 2、3 日	富士宮市（静岡県）	21 団体	25.0 万人
第 3 回	2008 年 11 月 1、2 日	久留米市（福岡県）	24 団体	20.3 万人
第 4 回	2009 年 9 月 19、20 日	横手市（秋田県）	26 団体	26.7 万人
第 5 回	2010 年 9 月 18、19 日	厚木市（神奈川県）	46 団体	43.5 万人
第 6 回	2011 年 11 月 12、13 日	姫路市（兵庫県）	63 団体	51.5 万人
第 7 回	2012 年 10 月 20、21 日	北九州市（福岡県）	63 団体	61.0 万人
第 8 回	2013 年 11 月 9、10 日（予定）	豊川市（愛知県）	—	—

（出典）一般社団法人 B 級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会 Web サイト掲載情報をもとに筆者作成

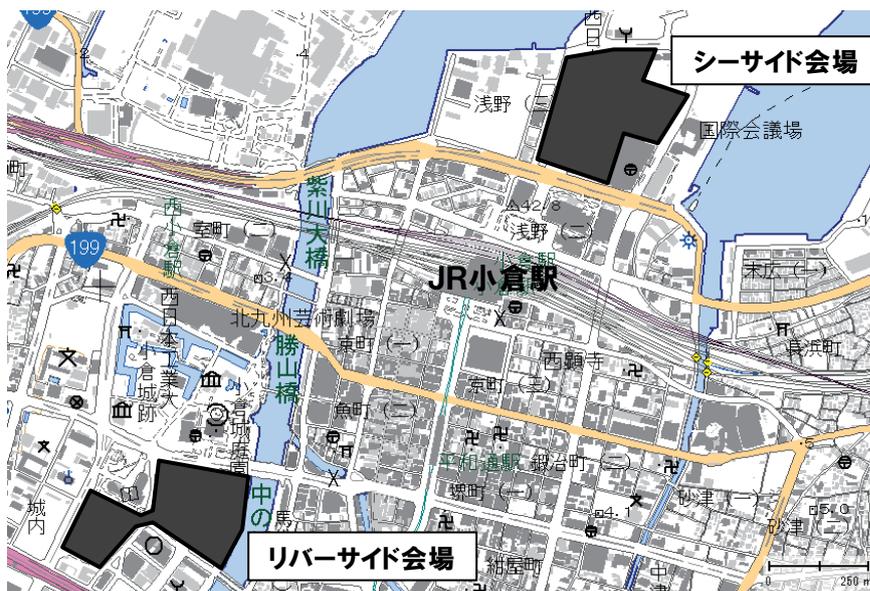
2. B-1 グランプリ in 北九州の開催概要

B-1 グランプリの第7回大会として開催された「B-1 グランプリ in 北九州」の開催概要を表2に示す。会場はJR小倉駅を挟んで2カ所に分散配置され（図1）、駅周辺の商業機能集積地を多くの人が通行した。また、2日間で延べ約2千人超の市民・企業・学生等のボランティアが様々な役割を担い、円滑な運営に貢献した。

表2 B-1 グランプリ in 北九州の開催概要

主催	B-1 グランプリ in 北九州実行委員会、 一般社団法人B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（愛Bリーグ）	
開催日時	2012年10月20日（土）、21日（日） 各10:00～16:00（開会式・閉会式除く）	
会場	北九州市小倉北区中心部（小倉駅から徒歩5～15分圏内）の2会場 ・リバーサイド会場（勝山公園）、 ・シーサイド会場（あさの汐風公園、西日本総合展示場） ※両会場間の移動時間は徒歩20分。路線バスの臨時運行、タクシーの定額運賃運行を実施	
出展団体	63団体（リバーサイド会場34団体、シーサイド会場29団体） 各団体とも1食300～500円でB級ご当地グルメを提供	
入場方法	入場無料 ※料理購入にはイベントチケット（一冊1,000円。100円券10枚綴）が必要。チケットは大会当日から11月4日まで北九州市全域の登録店や文化・観光施設で利用可能。	
同時開催	「魅力発信！北九州」フェア（北九州市制50周年関連事業） ※リバーサイド会場隣（北九州市役所周辺）において開催	
開催結果	天候	10月20日（土）：晴れ、最高気温22.6℃ 21日（日）：晴れ、最高気温25.9℃
	来場者数	主催者発表61.0万人 ※日別来場者数：20日（土）21.8万人、21日（日）39.2万人
	チケット	イベントチケット販売総数205,274冊
	スタッフ	ボランティアスタッフ2,189人、市職員スタッフ530人、警備スタッフ772人 など

（出典）B-1 グランプリ in 北九州公式ガイドブック、同事業報告書をもとに筆者作成



（出典）国土交通省国土地理院「電子国土Webシステム（電子国土ポータル）」から得た地図を背景に筆者作成

図1 B-1 グランプリ in 北九州の会場配置図

Ⅲ B-1 グランプリ in 北九州への来場者の評価

1. 来場者アンケートの実施概要

B-1 グランプリ in 北九州の開催時に実施した来場者アンケートの実施概要を表3に示す。調査の実施にあたっては、回答者に偏りが出ないようにできるだけ無作為抽出に近い形にする点、および会場で混乱が発生し来場者に不快感を与えることがないようにする点に、特に留意した。

Ⅲ.2 以降に、来場者アンケートの結果として得られた「回答者の属性」、「来場に際しての行動状況」、「B-1 グランプリ in 北九州に対する評価」について、分析・考察した結果を示す。

表3 B-1 グランプリ in 北九州来場者アンケート実施概要

調査体制	<ul style="list-style-type: none"> ・調査主体： B-1 グランプリ in 北九州実行委員会事務局 ・調査票設計、現地調査統括、集計・分析： 北九州市立大学 都市政策研究所 ・調査員： ボランティア（福岡ひびき信用金庫職員）
実施日時	<p>回答者に偏りが出ないように、時間帯を分散して実施した。</p> <p>2012年10月20日（土） 12:00～13:00、14:00～15:00 10月21日（日） 11:00～12:00、13:00～14:00</p> <p>※両日ともイベント実施時間は10:00～16:00</p>
実施場所	<p>リバーサイド会場全域、シーサイド会場全域</p> <p>※2会場で平行実施</p>
調査対象	<p>B-1 グランプリ in 北九州の会場内で飲食をしている、概ね18歳以上（目視で判断）の一般来場者を対象とした。</p>
調査方法	<p>来場者に対する質問紙調査とした。具体的には、調査員が回答依頼を口頭で行い、承諾を得た場合は調査票と筆記用具を渡し、回答者が記入後に回収した。なお、以下の点に留意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 回答者に偏りができるだけ出ないように、2会場とも20ブロックずつに分け、各ブロック担当の調査員が来場者に対し無作為（ただし、目視で概ね18歳以上の来場者を対象）に依頼した。 ○ 調査員1人あたり1時間で10サンプルの配布・回収を目標とした。 ○ 非常に混雑した会場での調査実施となるため、混乱を避けるために原則として座って食事を行っている来場者を対象とした。 <p>※ 調査票の体裁は、回答者が記入しやすいように配慮し、設問数を絞ってA4版表面1枚とし、クリップボードに挟んで回答者に渡した。</p> <p>※ 有効回答者への謝礼は、過去のイベントで使用した竹箸を用いて北九州エコタウンの企業がリサイクル処理した「竹炭」とした。</p>
配布回収状況	<p>配布数1,600、有効回収数1,600（回収率100%）</p> <p>※原則として調査実施時間1時間あたり200サンプル/会場ずつ配布回収</p>

2. 回答者の属性

(1) 性別、年齢

回答者の性別をみると、女性が60.4%であり男性よりも多い(図2)。年齢については、20代~60代までは大きな差が無く、幅広い世代が来場していたものと考えられる(図3)。B-1 グランプリ in 北九州は、どの世代からも開催が支持されるイベントであったと考えることができよう。

(2) 同行人数

一緒に来た人数を尋ねたところ、「二人」との回答が最も多かった(図4)。「自分一人」で来た回答者は少ない一方、五人以上で来た回答者は19.9%となっている。

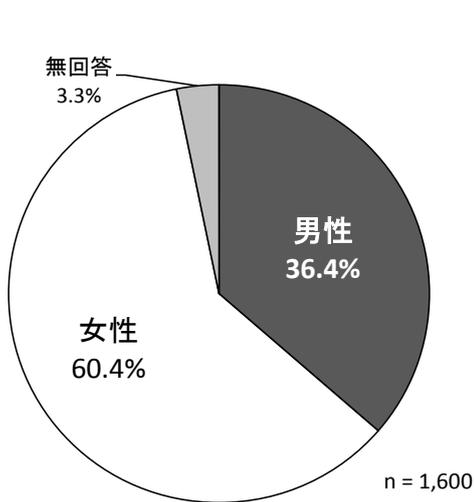


図2 回答者の性別

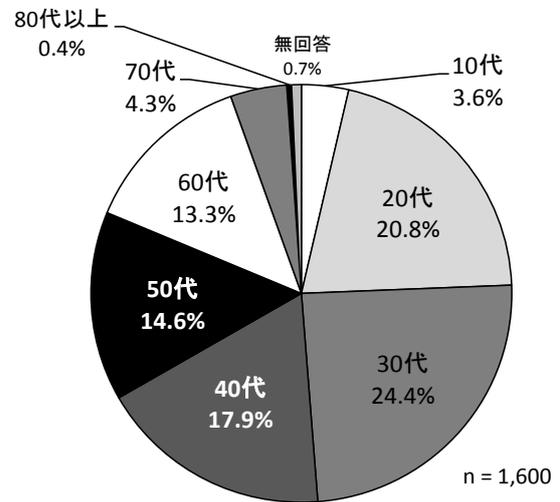


図3 回答者の年齢

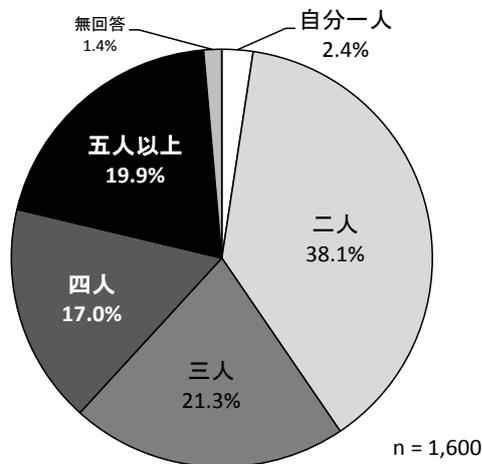


図4 会場と一緒に来た人数

(3) 居住地

回答者の居住地について尋ねたところ（表4）、北九州市内から来場した回答者が60.8%となっている。市内では、市東部（小倉北区、小倉南区、門司区）からの来場者が比較的多くなっている。

北九州市を除く福岡県内からの来場者は23.3%となっている。福岡県からの来場者は全体の8.7%と高い比率になっている。また、京築地区、中遠・直鞍地区といった北九州都市圏からの来場者が比較的多くなっている。

福岡県以外からの来場者は15.6%となっており、中国地方、九州からの来場が比較的多い。

来場者が会場から近い場所ほど多くなるのは、移動時間・費用等を勘案すると自然な現象であり、他のイベント等と同様の傾向がB-1グランプリにおいても見られると言える。しかしながら、比率は相対的に低いものの、来場者数が61万人にのぼるイベントであったため、人数としては遠方からもかなり多くの人々が北九州を訪れたものと推測できる⁸⁾。

B-1グランプリ in 北九州は、開催地である北九州市の市民に広く支持され、多くの市民に全国のB級ご当地グルメを楽しむ機会を提供する効果があったと共に、多くの市外からの来訪者を集めたことによる様々な効果（地域経済への効果、北九州市に関する情報発信効果等）が期待できるイベントであったと言えよう。

表4 回答者の居住地

居住地	回答者数	比率
北九州市	972	60.8%
門司区	99	6.2%
小倉北区	262	16.4%
小倉南区	201	12.6%
若松区	62	3.9%
八幡東区	65	4.1%
八幡西区	157	9.8%
戸畑区	58	3.6%
※区名無回答	68	4.3%
福岡県内 (北九州市以外)	373	23.3%
福岡市	139	8.7%
京築地区	66	4.1%
中遠・直鞍地区	66	4.1%
飯塚・嘉穂地区	15	0.9%
田川地区	11	0.7%
宗像・糟屋地区	28	1.8%
筑紫地区	25	1.6%
筑後地域	13	0.8%
※市町村名無回答	10	0.6%
福岡県以外	249	15.6%
北海道・東北	3	0.2%
関東	26	1.6%
中部	11	0.7%
近畿	20	1.3%
中国	111	6.9%
うち山口県	91	5.7%
うち下関市	59	3.7%
宇部市	7	0.4%
山口市	12	0.8%
その他	13	0.8%
広島県	14	0.9%
岡山・島根	6	0.4%
四国	8	0.5%
九州	68	4.3%
うち佐賀県	21	1.3%
長崎県	12	0.8%
熊本県	7	0.4%
大分県	20	1.3%
宮崎県	4	0.3%
鹿児島県	4	0.3%
※市町村名無回答	2	0.1%
無回答	6	0.4%
合計	1,600	100.0%

3. 来場に際しての行動状況

(1) B-1 グランプリ in 北九州への参加日数

回答者合計で見ると、1日のみ参加の回答者が82.4%、2日間とも参加の回答者が15.0%となっており、1日のみ参加した人が大半を占める（図5）。

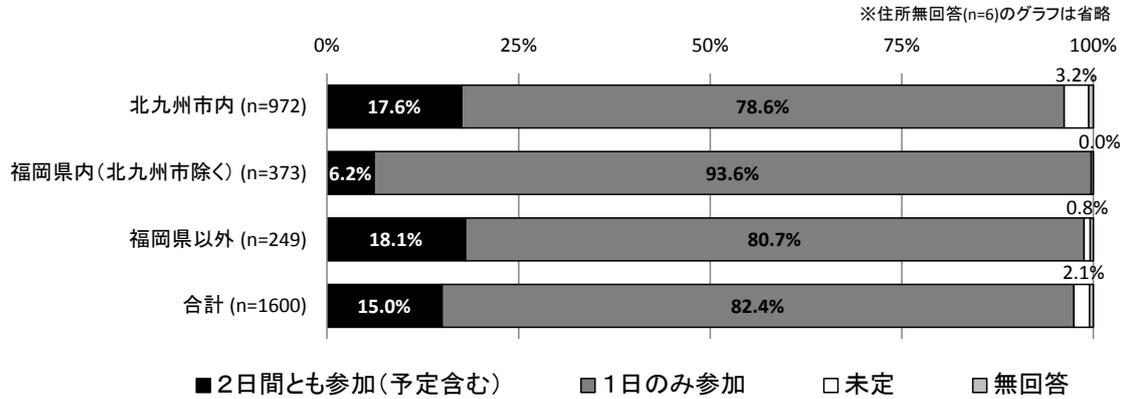


図5 B-1 グランプリ in 北九州への参加日数

(2) B-1 グランプリ in 北九州への来場に伴う宿泊

今回の来場に伴う、ホテル・旅館・知人宅等への宿泊有無について尋ねた。回答者合計で見ると84.9%の回答者が「日帰り」であり、「北九州市内に宿泊」は6.8%、「北九州市外で宿泊」は1.6%となっている（図6）。福岡県以外からの来場者については「北九州市内に宿泊」が28.9%、「北九州市外で宿泊」が9.2%であり、宿泊した比率が高くなっている。宿泊関連産業に経済効果があったことを表している。

なお、「北九州市外に宿泊」の場合の宿泊地は、福岡市への宿泊者が多く、次いで下関市となっている（表5）。経済効果が広域に及んでいることがうかがわれる。

表5 市外に宿泊した場合の宿泊地

宿泊地	回答者数	全回答者(n=1600)に占める比率
福岡市（福岡県）	15	0.94%
下関市（山口県）	3	0.19%
行橋市、苅田町、田川市、朝倉市（福岡県）	各1	各0.06%
佐賀市（佐賀県）	1	0.06%
無回答	2	0.13%
合計	21	1.31%

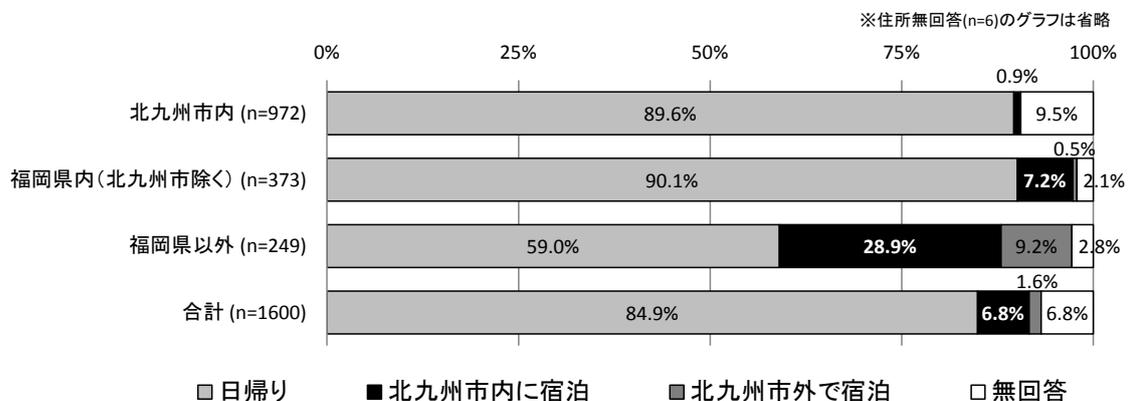


図6 B-1 グランプリ in 北九州への来場に伴う宿泊の有無

(3) B-1 グランプリ in 北九州への来場に伴う観光、買い物

今回の来場に伴い、観光や買い物などの消費行動（経済活動）を行ったかどうかについて尋ねた。北九州市内からの来場者は、「特別な観光や買い物はしない」が 66.6%であり、来場に伴う観光、買い物をする人は 30%に満たない。一方、北九州市を除く福岡県内からの来場者では、「北九州市内で観光、買い物をする」人が 41.0%、福岡県外からの来場者では「北九州市内で観光、買い物をする」人が 39.4%となっている（図 7）。B-1 グランプリの開催に伴い、市外からの来場者による、北九州市内における B-1 グランプリ以外の経済活動を誘発したことがうかがわれる。こうした市外からの来場者による消費は、北九州市にとって、いわば「外貨獲得」に相当するものであり、北九州市における実質的な経済効果があった事を端的に表していると言えよう。

また、「北九州市以外の福岡県内で観光、買い物をする」および「福岡県以外で観光、買い物をする」とした回答者も、福岡県以外からの来場者では合計 14.4%にのぼっており、来場者合計でも 3.5%となっている。これらは回答比率としては低いものの、B-1 グランプリの来場者は極めて多いため、多くの人数の観光客、買い物客が北九州市周辺地域を訪れたものと推測できる。

B-1 グランプリ会場内だけでの経済活動には止まらず、会場外（北九州市内の飲食・商業店舗や観光施設等、あるいは北九州市外の施設）での経済活動もある程度活発に行われ、経済効果をもたらしたと評価できよう。

訪れた観光地・買い物場所として自由記入された結果を整理すると、無回答が多かったものの、北九州市内については、多くが小倉北区中心部の商業・観光施設であり、それ以外の地区としては門司・門司港を訪れた観光客が多い（表 6）。北九州市外については、福岡市を挙げた回答者が多い（表 7）。

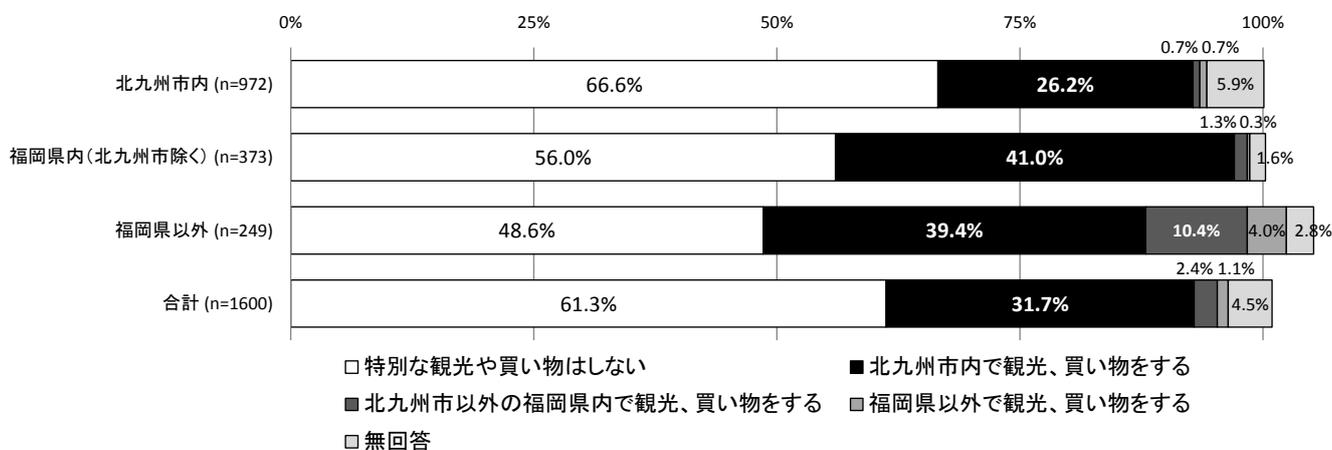


図 7 B-1 グランプリ in 北九州への来場に伴う観光、買い物の有無

表 6 北九州市内での観光・買い物場所

観光・買い物場所 (自由記入されたものを分類)	回答数 (複数回答)	回答対象者に対する比率	全回答者 (n=1600)に対する比率
小倉北区中心部の商業・観光施設	218	43.0%	13.6%
アミュプラザ・コレット	53	10.5%	3.3%
魚町・旦過	39	7.7%	2.4%
井筒屋・リバーウォーク	95	18.7%	5.9%
小倉城	13	2.6%	0.8%
あるあるCity	6	1.2%	0.4%
他の小倉北区中心部(場所不特定含む)	12	2.4%	0.8%
門司・門司港	14	2.8%	0.9%
血倉山	3	0.6%	0.2%
競輪等	3	0.6%	0.2%
その他	7	1.4%	0.4%
場所の特定できない回答	15	3.0%	0.9%
無回答	279	55.0%	17.4%
合計	507	100.0%	31.7%

表 7 北九州市外での観光・買い物場所

観光・買い物場所 (自由記入されたものを分類)	回答数
福岡県内 (北九州市以外)	
福岡市内(博多、天神、大型商業施設等)	16
太宰府市	2
柳川市	1
場所の特定できない回答	3
無回答	16
合計	38
福岡県外	
岩国(山口県)	1
下関(山口県)	1
呼子(佐賀県)	1
嬉野温泉(佐賀県)	1
長崎(長崎県)	1
湯布院(大分県)	1
Jリーグ観戦(※鳥栖(佐賀)と推定)	1
無回答	11
合計	18

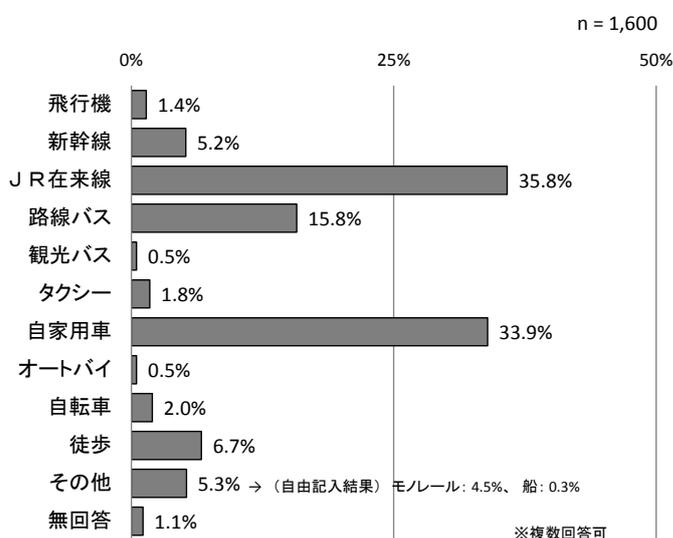


図 8 B-1 グランプリ in 北九州への来場に利用した交通手段

(4) B-1 グランプリ in 北九州への来場に利用した交通手段

来場に利用した主な交通手段について複数回答可として尋ねた。JR在来線が35.8%、自家用車が33.9%と多くなっている(図8)。また、路線バスも15.8%で比較的多い。北九州市外の事業者も含め、交通事業者、駐車場事業者に対して、経済効果があったことを表している。

(5) B-1 グランプリ in 北九州に関連した北九州市内での一人あたり支出金額

北九州市内での一人あたり支出金額(予定を含む。)を主な消費行動別に尋ね、自由記入式で回答を求めた。また、図6において「北九州市内に宿泊」とした回答者について、一人あたり宿泊費用を尋ねた。その結果について、回答者の行動形態別(宿泊したかどうか)にまとめたものを表8~12に示す。宿泊したかどうかに区分している理由は、この結果を経済波及効果の推計において用いる際に区別するためである。詳細はIVを参照されたい。

宿泊費を除く各項目の平均消費額算出は、金額無記入の回答者を「0円の支出」として扱って計算した結果を示している⁹⁾。なお、これらの項目全体に無回答であった回答者(市内宿泊者4、市外宿泊者0、日帰り客等21)については、平均消費額算出の対象から除外した。宿泊費について「0円」とする回答があるが、これは親族・知人宅に宿泊した場合と想定される。宿泊費の経済波及効果の推計に際しては、この影響を除き、支出を行ったと回答した回答者のみを対象に平均金額を算出した結果を示している。

この設問は経済波及効果の推計に用いる目的であるため、項目別の考察は行わない。また、B-1 グランプリ会場内でのイベントチケットによる飲食費等については、アンケート結果ではなく実績値をもとに経済波及効果推計に用いるため、省略する。

表 8 北九州市内 (B-1 グランプリ会場外) での「飲食費」

支出金額 (北九州市内での一人あたり額)	回答者数		
	市内宿泊客	市外宿泊客	日帰り客等
500円未満	9	1	206
500～999円	1	1	40
1000～1999円	10	1	125
2000～2999円	9	2	78
3000～3999円	7	1	35
4000～4999円	3	0	4
5000円以上	22	5	40
当該項目無記入	43	14	918
設問に無回答	4	0	21
合計	108	25	1467
平均消費額	¥2,920	¥2,440	¥674

表 9 北九州市内 (B-1 グランプリ会場外) での「おみやげ、グッズ購入費」

支出金額 (北九州市内での一人あたり額)	回答者数		
	市内宿泊客	市外宿泊客	日帰り客等
500円未満	18	1	310
500～999円	1	0	14
1000～1999円	5	1	34
2000～2999円	4	2	12
3000～3999円	7	2	7
4000～4999円	0	0	0
5000円以上	4	4	12
当該項目無記入	65	15	1057
設問に無回答	4	0	21
合計	108	25	1467
平均消費額	¥524	¥1,240	¥186

表 10 北九州市内での「観光施設入場料、娯楽費」

支出金額 (北九州市内での一人あたり額)	回答者数		
	市内宿泊客	市外宿泊客	日帰り客等
500円未満	17	1	285
500～999円	1	1	13
1000～1999円	2	3	19
2000～2999円	4	2	2
3000～3999円	2	1	6
4000～4999円	0	0	1
5000円以上	9	4	7
当該項目無記入	69	13	1113
設問に無回答	4	0	21
合計	108	25	1467
平均消費額	¥688	¥1,468	¥76

表 11 北九州市内での「交通費」

支出金額 (北九州市内での一人あたり額)	回答者数		
	市内宿泊客	市外宿泊客	日帰り客等
500円未満	4	2	170
500～999円	3	0	182
1000～1999円	8	2	125
2000～2999円	9	0	48
3000～3999円	4	1	29
4000～4999円	2	0	11
5000円以上	23	9	23
当該項目無記入	51	11	858
設問に無回答	4	0	21
合計	108	25	1467
平均消費額	¥4,142	¥9,848	¥502

表 12 北九州市内での「宿泊費」

	回答者数	比率
0円	16	14.8%
1～4999円	10	9.3%
5000～9999円	18	16.7%
10000～14999円	6	5.6%
15000円以上	6	5.6%
無回答	52	48.1%
合計	108	100.0%

北九州市内での
有料宿泊者
40人
平均宿泊費 ¥9,470

※宿泊費は、「北九州市内に宿泊」と回答した108人を対象とした結果

4. B-1 グランプリ in 北九州に対する評価

(1) B-1 グランプリ in 北九州に関わる各項目に対する評価

B-1 グランプリ in 北九州に関する 11 の評価項目を示し、「とても良い」5点、「良い」4点、「普通」3点、「悪い」2点、「とても悪い」1点とした5段階評価を回答者に求めた。

各段階別の構成比を図9に示す。「とても良い」が多いのは、人についての各項目および総合的な満足度であり、これらの項目は「とても良い」と「良い」を足すと75%を超えている。また、料理の味、料理の種類についても高評価する回答が多い。主催者にとって来場者の満足度は大会を評価する際の最重要の要素の一つと言え、総合的な満足度、運営に関わる人に対する評価、料理に対する評価がいずれも高い結果となったことについては、B-1 グランプリ in 北九州が成功したと評価する根拠の一つになるものと言えよう。

また、5段階評価の点数をもとに項目別平均点を算出した結果を図10に示す。平均点が最も高いのは「総合的な満足度」の4.14点（5点満点中）である。次いで「各出展団体¹⁰のスタッフの接客態度」、「ボランティア、市民の“おもてなし”の姿勢」など、B-1 グランプリ in 北九州に関わった人々や北九州市民のホスピタリティに係る事項である。一方、相対的に評価が低いのは「会場の混雑度合い」「目当ての料理の買いやすさ」などであり、来場者が非常に多かったことが要因となったと考えられる。来場者の誘導や会場設計などについて、改善の余地があった可能性を指摘できよう。ただし、これらの項目においても、平均点は3点を上回っており、一定の水準は確保できていたものと考えられる。

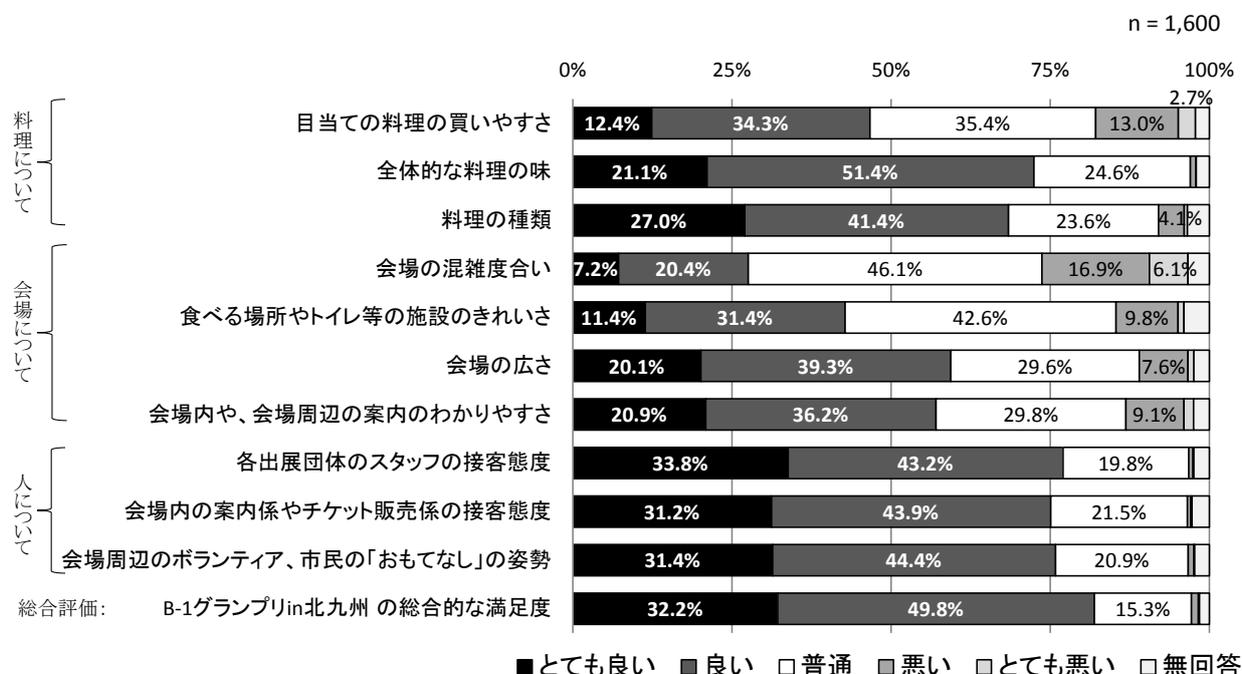
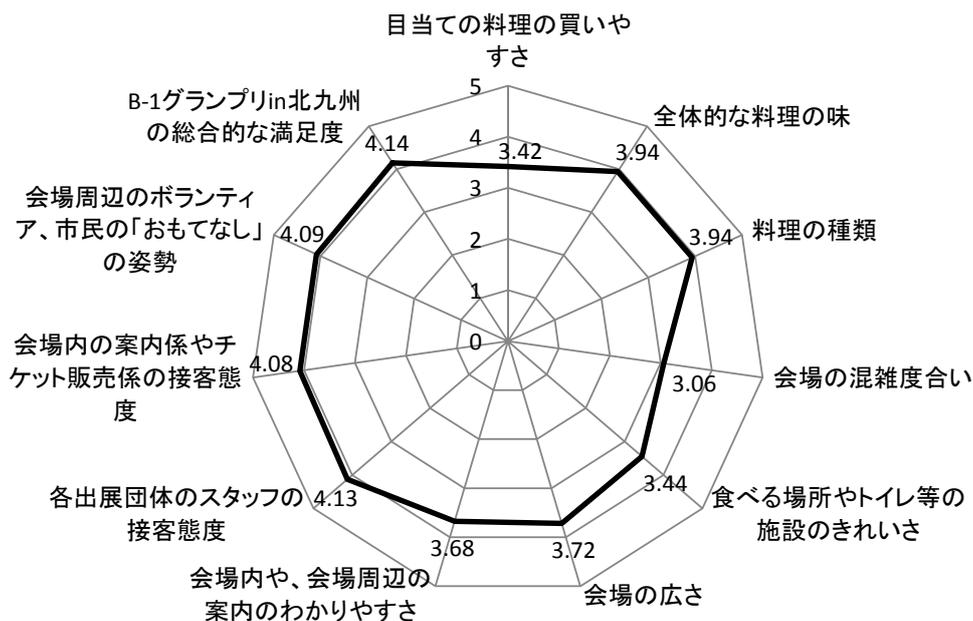


図9 B-1 グランプリ in 北九州に対する評価



n=1,600

※「とても良い」5点、「良い」4点、「普通」3点、「悪い」2点、「とても悪い」1点として算出。

図 10 B-1 グランプリ in 北九州に対する評価の項目別平均点

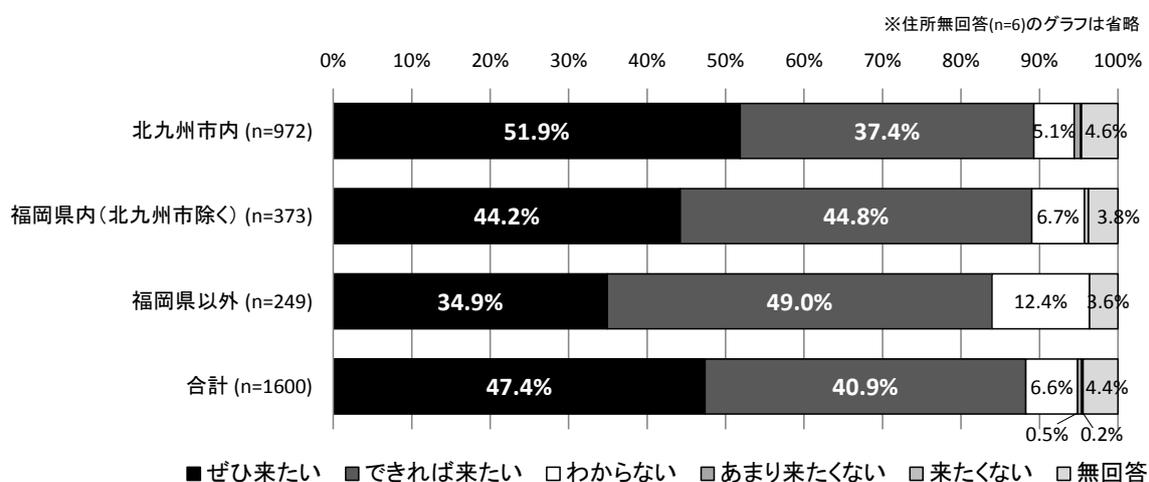


図 11 今後、北九州市で「ご当地グルメ」イベントが開催された場合の来場意欲

(2) 今後の北九州での「ご当地グルメ」イベントへの来場意欲

今後、北九州市において「ご当地グルメ」を活かした同種のイベントが開催される場合の来場意欲を尋ねたところ、回答者合計で見ると「ぜひ来たい」47.4%、「できれば来たい」40.9%であり、大半の来場者が、高い再来場意欲を持っている（図 11）。「あまり来たくない」、「来たくない」とする回答者は合わせて 1%にも満たない。居住地別に見ると、福岡県以外からの来場者についても「ぜひ来たい」「できれば来たい」の合計が 83.9%にのぼ

っている。

この結果から、「ご当地グルメ」イベントへの人気が高いことがうかがわれる。また、来場意欲の高さは、B-1 グランプリ in 北九州への満足度が高かったことを反映していると推測できる。B-1 グランプリ in 北九州の開催により、シティプロモーションの推進や、市外の人々に対する北九州市のイメージアップという観点からも成果があったと考えられる。

5. まとめ

来場者アンケート結果について、B-1 グランプリ in 北九州に対する評価の視点から結果を再掲すると、以下の点が挙げられる。

- 幅広い世代に開催を支持された。
- 多くの北九州市民の来場があり、地元市民へ楽しみを提供する場となった。一方、比率は相対的に低いものの、人数としてはかなり多くの市外からの来場者があり、全国の人々に楽しみを提供した。
- B-1 グランプリ会場内だけで経済活動が行われたのではなく、会場外の北九州市内の商業・観光施設等においても経済活動が行われ、また宿泊関連産業や交通関連産業等への経済効果もあったことが期待できる。また、北九州市外（福岡市、下関市など）での経済活動も誘発したと考えられ、開催効果が広域に及んだと推測できる。
- B-1 グランプリ in 北九州に対する来場者の総合的な満足度は高く、イベントとして成功したものと評価できる。特に、運営に関わった人々や北九州市民のホスピタリティに係る事項への評価は高かった点は注目すべき事項である。
- 今後、北九州市で「ご当地グルメ」イベントが開催された場合の来場意欲は高く、B-1 グランプリ in 北九州は、北九州市のシティプロモーションの推進やイメージアップという観点からも成果があったと考えられる。

以上の点から、B-1 グランプリ in 北九州の開催は成功したと客観的に評価する。さらに、シティプロモーション効果があった点、北九州市民による「おもてなし」への評価が高かった点などを踏まえると、今後の北九州のまちづくりに大きな財産を残したと考える。

IV B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への経済波及効果

1. 経済波及効果推計の枠組み

(1) 推計対象とする経済活動

経済波及効果とは、あるイベント等が行われたことをきっかけとして、その影響（原材料の調達や、結果として生じた雇用者所得増による消費活動など）が次々と他の経済活動にも波及していく効果を指す。イベント等の評価の目安の一つとして、一般的に用いられるものである。本研究では、B-1 グランプリ in 北九州の開催そのものが、北九州市内でどれだけの経済波及効果があったのかという点について、金額を推計することとする。

推計対象とする経済活動は、B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内での直接的な経済活動（直接効果）と、直接効果に伴う北九州市内での間接効果（波及効果）とする（表 13）。実際に行われたと推定される経済活動を対象とし、広告効果等の仮想的なものについては推計対象に含まないこととする。

表 13 B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う経済波及効果推計で対象とする経済活動

推計に含む 経済活動	1) 「B-1 グランプリ in 北九州」開催に伴う、北九州市内での直接的な経済活動（直接効果） <ul style="list-style-type: none"> ① 来場者による、北九州市内での消費活動 ② 主催者・出展団体による、北九州市内での調達活動等 2) 直接効果に伴う北九州市内での間接効果（波及効果） <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般的な例を踏まえ、二次波及効果¹¹⁾まで推計。 ※ 1)、2) の合計を「北九州市内での経済波及効果」として算出。
(参考) 推計に含まない 経済活動	<ul style="list-style-type: none"> ・開催に伴う広告効果 ・北九州のご当地グルメを食べる事を目的として、B-1 グランプリ in 北九州開催時期以外に北九州を訪れた人の飲食・観光行為等による経済効果 ・その他、B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市外における経済効果

(2) 推計手法

一般的に、イベントや事業がもたらす経済波及効果の算出に際しては、直接的な消費額を推定し、それを産業部門別に振り分けて産業連関表に投入し波及効果を算出する手法が用いられる。B-1 グランプリに関する秋吉（2012）、あるいは総務省（2011）においても、対象とする経済活動の範囲の設定は異なるものの、産業連関表に投入する手法は共通している。本研究においても、産業連関表に投入する手法を用いる。

具体的には、北九州市が 2012 年に公表した「北九州市産業連関表（平成 17 年表）」¹²⁾を用いる。北九州市産業連関表（平成 17 年表）には、全産業をそれぞれ 13、34、108 の部門に分けた 3 種類があるが、本推計では来場者アンケート結果などをもとに算出するという精度を勘案し、34 部門を用いることが適切であると判断した。

2. B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への直接効果額の推計

(1) 直接効果額の考え方

本研究においては、「B-1 グランプリ in 北九州開催に伴って北九州市内で消費された金額」のことを指す。表 13 で示したように、対象とするのは「来場者による、北九州市内での消費活動」および「主催者・出展団体による、北九州市内での調達活動等」の二種類とする。いずれも、一部事項を除いて完全に正確なデータとして捕捉することはできないため、内容ごとに細分化して、項目ごとに推計を行ったものを合算することとする。なお、正確な金額が把握できる事項については、実績値を用いる。

(2) 直接効果額の項目区分および推計方法

経済波及効果推計の各種事例等を踏まえ、本研究においては「来場者による、北九州市内での消費活動」を6項目、「主催者・出展団体による、北九州市内での調達活動等」を12項目に分類し、各項目ごとに推計手法を設定する(表14)。来場者アンケートの結果を用いる事が可能な項目は、アンケートから求めた平均消費額(表8~12)に来場者数(宿泊の有無別)を乗じて算出することとした¹³⁾。また主催者(B-1 グランプリ in 北九州実行委員会事務局)から提供を受けることが可能なデータ(集計処理した財務データ、出展団体の来場人数に関するデータ等)は、それを用いることとした。

なお、B-1 グランプリ会場内での飲食・土産購入費については、北九州市内への経済波及効果算出に用いることが相当と考えられる金額のみに処理した上で計上した¹⁴⁾。また、来場者による北九州市内での消費活動の中で推計に使用する「人数」については、主催者発表の来場者数61.0万人(開催2日間合計、延べ数)をもとに、来場者アンケートの宿泊に係る設問の回答結果(図6、表12)に基づき、表15のように振り分けて用いた。

表14 B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への直接効果額の推計手法一覧

項目 (いずれも北九州市内での支出)	推計方法	推計に使用する平均消費額、人数			適用する産業部門	
		日帰り等	市外宿泊	市内宿泊		
① 来場者による、北九州市内での消費活動	会場内での飲食・土産購入費のうち、北九州市内での経済効果試算対象となる費用	大会の実績値データ(売上高など)をもとに概算。ドリンクブース、「魅力発信!北九州フェア」参加団体売上などが対象。 ※売上の中から全国各地の出展団体に材料費等として支払われる費用は計算対象から除外。	/			商業(50%)、対個人サービス(50%)
	会場外での飲食費	アンケートから求めた平均消費額×来場者数 ※来場者数に関しては宿泊有無で区分。以下同様	674円×559000人	2440円×10000人	2920円×41000人	対個人サービス
	会場外での土産購入費	アンケートから求めた平均消費額×来場者数	186円×559000人	1240円×10000人	524円×41000人	対個人サービス
	会場外での観光施設入場料等	アンケートから求めた平均消費額×来場者数	76円×559000人	1468円×10000人	688円×41000人	対個人サービス
	市内支出の交通費	アンケートから求めた平均消費額×来場者数	502円×559000人	9848円×10000人	4142円×41000人	運輸
宿泊費	アンケートから求めた平均消費額×市内有料宿泊者数 ※市内宿泊者のうち有料宿泊者15,000人と推定	-	-	9470円×15000人	対個人サービス	
② 主催者・出展団体による、北九州市内での調達活動等	主催者調達費(印刷)	B-1 グランプリ in 北九州実行委員会事務局から提供を受けた実績値を使用。 ※ 北九州市内の企業に発注した調達(委託含む)費用を対象	/			その他の製造工業製品
	主催者調達費(建設)					建設
	主催者調達費(商業)					商業
	主催者調達費(不動産)					不動産
	主催者調達費(運輸)					運輸
	主催者調達費(対事業所サービス)					対事業所サービス
	主催者調達費(対個人サービス)					対個人サービス
	主催者調達費(情報通信、電力・ガスなど)					※各詳細費目に従い配分
	出展団体調達費(食材)					農林水産業(50%)、商業(50%)
	出展団体調達費(機材等)					対事業所サービス
出展団体滞在費用(宿泊費)	北九州市観光動態調査(平成23年次)報告書における、平均宿泊費×宿泊者数(実績、延べ数)	-	-	7975円×3819人	対個人サービス	
出展団体滞在費用(飲食費)	北九州市観光動態調査(平成23年次)報告書における、平均飲食費×出展者数(推定、延べ数)	3714円×5212人			対個人サービス	
北九州市への直接効果額 計	上記の合計					

表15 B-1 グランプリ in 北九州の来場者数の区分設定

		推計に使用する人数(人)	比率		
来場者数 (主催者発表。開催2日間合計(延べ数))		610,000	100.00%		
内訳 (アンケートから推定)	日帰り客等	559,000	91.69%	※宿泊有無に無回答だった回答者を含む	
	市外宿泊客	10,000	1.56%		
		市内宿泊客	15,000		2.50%
			41,000		6.00%
	20,000	3.25%	※宿泊費無回答の回答者		

※区分人数は百の位で四捨五入

また、来場者のうちの北九州市内での有料宿泊者数については、北九州市内のホテル・旅館に宿泊して宿泊費を支払った場合を想定している。厚生労働省『平成 23 年度 衛生行政報告例』第 25 表によると、北九州市のホテル・旅館の客室数合計は 9,675 室（二人以上宿泊可能な室も含む。）であり、開催日前後を含め計 3 日間で宿泊が分散して行われたと仮定すると、当該期間の北九州市内での供給可能客室数は延べ 29,025 室となる。従って、本研究で設定する有料宿泊人数 15,000 人および出展団体による宿泊人数 3,819 人は合計しても 29,025 室に収まる規模となり、北九州市内のホテル・旅館で実際に収容可能な人数であると考えられるため、過大な設定とはなっていないと考える。

(3) B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への直接効果額の推計結果

表 14 の方法に基づいて直接効果額を計算した結果を表 16 に示す。

B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への直接効果額の合計金額は、約 16 億 6000 万円と推計できる。

表 16 B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への直接効果額の推計結果

項目	金額 (百万円)	内訳 (百万円)		
		日帰り客等	市外宿泊客	市内宿泊客
① 来場者による、北九州市内での消費活動	1,478.6	-	-	-
会場内での飲食・土産購入費のうち、北九州市内での経済効果試算対象となる費用	43.5	-	-	-
会場外での飲食費	520.9	376.77	24.40	119.72
会場外での土産購入費	137.9	103.97	12.40	21.48
会場外での観光施設入場料等	85.4	42.48	14.68	28.21
市内支出の交通費	548.9	280.62	98.48	169.82
宿泊費	142.1	0.00	0.00	142.05
② 主催者・出展団体による、北九州市内での調達活動等	181.6			
主催者調達費(印刷)	8.3			
主催者調達費(建設)	6.1			
主催者調達費(商業)	4.8			
主催者調達費(不動産)	8.1			
主催者調達費(運輸)	4.4			
主催者調達費(対事業所サービス)	82.1			
主催者調達費(対個人サービス)	3.4			
主催者調達費(情報通信、電力・ガスなど)	1.9			
出展団体調達費(食材)	10.0			
出展団体調達費(機材等)	2.9			
出展団体滞在費用(宿泊費)	30.5			
出展団体滞在費用(飲食費)	19.4			
①+② 北九州市への直接効果額 計	1,660.2			

3. B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への経済波及効果額の推計

(1) 推計手法

直接効果額約 16 億 6000 万円について、表 14 に示した費目別の適用産業分類を用い、「北九州市産業連関表（平成 17 年表）」の 34 部門表に投入して経済波及効果額を推計する。計算の過程で使用する逆行列係数表は、地域外との移輸出・移輸入を加味した開放型を用いる。消費転換率については総務省「家計調査年報（家計収支編）平成 23 年」における北九州市の値（0.6405）を用い、商業マージンについては、総務省「平成 17 年産業連関表（全国表）」から求める。

(2) 北九州市内への経済波及効果額の推計結果

経済波及効果額を計算した結果を表 17 に示す。B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への経済波及効果額の推計結果は、約 26 億 5000 万円となる。このうち一次波及効果は約 6 億 4600 万円、二次波及効果は約 3 億 4400 万円となる。なお、産業部門別の生産誘発額（直接＋一次波及＋二次波及）の推計結果を表 18 に示す。

表 17 B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への経済波及効果額の推計結果

項目	金額 (百万円)
直接効果額	1,660
一次波及効果	646
二次波及効果	344
経済波及効果額	2,651
(参考) 波及効果倍率	1.60 ※ 経済波及効果額／直接効果額

表 18 B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内での産業部門別生産誘発額

No.	部門	生産誘発額 (直接+波及) (百万円)	No.	部門	生産誘発額 (直接+波及) (百万円)
01	農林水産業	8	19	建設	29
02	鉱業	0	20	電力・ガス・熱供給	44
03	飲食料品	32	21	水道・廃棄物処理	33
04	繊維製品	1	22	商業	168
05	パルプ・紙・木製品	5	23	金融・保険	99
06	化学製品	6	24	不動産	111
07	石油・石炭製品	7	25	運輸	702
08	窯業・土石製品	3	26	情報通信	67
09	鉄鋼	2	27	公務	4
10	非鉄金属	0	28	教育・研究	13
11	金属製品	5	29	医療・保健・社会保障・介護	11
12	一般機械	2	30	その他の公共サービス	11
13	電気機械	1	31	対事業所サービス	226
14	情報・通信機器	0	32	対個人サービス	1,015
15	電子部品	1	33	事務用品	5
16	輸送機械	3	34	分類不明	11
17	精密機械	0		合計	2,651
18	その他の製造工業製品	26			

(3) 過去の B-1 グランプリの経済波及効果との比較について

いろいろなイベント等に関し推計される経済波及効果額は、推計の前提条件、推計範囲等がそれぞれ異なるため、他との比較を単純に行うことはできない。過去の B-1 グランプリの経済波及効果の推計についても共通の手法等で行われているものではないため、比較は難しい。しかしながら、推計結果を公表した場合、他との比較をいろいろな場面で行われやすいことが推察される。そこで、推計結果が学術論文で明らかになっている B-1 グランプリ in 姫路（2011 年開催）を対象に、B-1 グランプリ in 北九州（2012 年開催）の推計結果を比較して、留意点等の考察を行っておくこととする。

経済波及効果の推計に際しては、ある一定の範囲（国、都道府県、市町村など）の設定が必要となる。そのような性質を持つ数値であるため、例えば県の範囲と市の範囲でそれぞれ別に推計された結果のように、対象とする範囲が異なる場合においては、最終的な推計金額合計のみで比較することは適切ではない。比較を行う場合は、対象とする範囲を県同士、あるいは市同士などに揃えることが望ましい。また、対象とする範囲の地域経済の規模・状況は通常異なっている。地域の経済に与える影響を考慮する場合、各地域の経済状況に対し、どの程度のインパクトがあるものかを比較することが重要と考える。

B-1 グランプリ in 姫路と B-1 グランプリ in 北九州を比較する上では、基礎自治体同士の範囲で比較することが必要と考える。それぞれ推計された経済波及効果額は、B-1 グランプリ in 姫路は兵庫県内 40.7 億円・姫路市内 16.4 億円であり、B-1 グランプリ in 北九州は北九州市内 26.5 億円である（表 19）。姫路大会における兵庫県内への効果額の方が北九州大会における北九州市内への効果額よりも高いが、市同士である姫路市内への効果額と北九州市内への効果額を比較すると、北九州市内への効果額の方が高い。一方、域内総生産に占める比率を見ると、北九州大会における北九州市経済に対するインパクトは、姫路大会における兵庫県経済に対するインパクトより大きく、姫路市経済に対するインパクトとは同程度である。

こうしたことから、基礎自治体の範囲に着目すると、経済波及効果の金額そのものは B-1 グランプリ in 北九州の方が高く、地域経済へのインパクトという点では B-1 グランプリ in 姫路と B-1 グランプリ in 北九州は同程度であったと評価できる。

表 19 B-1 グランプリ in 姫路と B-1 グランプリ in 北九州の経済波及効果額等の比較

大会名	推計範囲	①	②	①/②	各範囲から域内来場者比率(アンケート結果)
		B-1グランプリ開催 経済波及効果額 推計結果(億円)	各範囲の域内総生産 (億円)	B-1経済波及効果額が 域内総生産に占める比率	
2011年 姫路	兵庫県	40.7	178,259	0.02%	42% (姫路市除く)
	姫路市	16.4	19,870	0.08%	31%
2012年 北九州	北九州市	26.5	34,670	0.08%	60.8%

注) 姫路大会の推計結果はいずれも兵庫県立大学・秋吉一郎教授の推計による。
各範囲の域内総生産額は、いずれも平成21年度の名目額。
姫路大会と北九州大会では、推計対象とした経済活動の種類は一部異なっている。

なお、B-1 グランプリ in 姫路の来場者は 51.5 万人、B-1 グランプリ in 北九州の来場者は 61.0 万人であり、来場者数が北九州の方が多いながらも姫路市・北九州市の地域経済に与えたインパクトが同程度であった理由としては、B-1 グランプリ in 北九州の方が「市内からの来場者」の比率が高かった点が考えられる。市内からの来場者は交通費や土産購入費などが少なくなるため、経済効果の観点からは影響は小さくなる。

本研究においては北九州市における経済波及効果に限定して推計しており、福岡県全体、あるいは隣接する下関市を含めた関門地域等としての経済波及効果額は推計していない。さらに全国的な経済効果等についても推計していない。B-1 グランプリ in 北九州への来場の際に、市外からの来場者は各居住地（北九州市外）や拠点空港・拠点駅、あるいはインターネット決済等によって多額の交通費等を支出していると予測でき、また、来場者アンケートによると北九州市以外の地域で観光活動等を行っている来場者もいる。こうしたことから、北九州市外での経済波及効果も含めると、本研究で推計した北九州市内での経済波及効果額約 26.5 億円よりも多額にのぼることが考えられる。

4. まとめ

B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う、北九州市内への経済波及効果額の推計結果について主要事項を再掲すると、以下の点が挙げられる。

- B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州内への直接効果額の推計結果は、約 16.6 億円となる。
- 直接効果額に基づき「北九州市産業連関表（平成 17 年表）」34 部門表を用いて経済波及効果（二次波及効果まで）を計算したところ、B-1 グランプリ in 北九州開催に伴う北九州市内への経済波及効果額の推計結果は、約 26.5 億円となる。

B-1 グランプリ in 北九州の事業規模は約 3 億円（うち約 2 億円分の収入はイベントチケット販売額）であることを勘案しても、B-1 グランプリ in 北九州の開催が地域経済の活性化に成果があったと評価できよう。

V おわりに

本研究では、B-1 グランプリ in 北九州に対する来場者の評価、および開催に伴う北九州市内への経済波及効果の把握・分析を行った。B-1 グランプリ in 北九州については、来場者満足度が高い点などから開催は成功したものと評価でき、また開催に伴う北九州市内への経済波及効果額は約 26.5 億円と推計されることから地域経済の活性化にも成果があったと評価できる。

人口減少局面に入り、高齢化も他の政令指定都市にさきがけて進行している北九州市におけるまちづくりにおいては、B-1 グランプリ in 北九州をはじめとした市制 50 周年関連イベント¹⁵⁾等の開催経験を生かしながら、市民・企業・地域の様々な団体・行政等が協力

することにより、地域活力の維持・向上に向けて一層努力していくことが必要となる。B-1 グランプリ in 北九州において、地域の各主体の協力によって開催を成功させたという体験を得ることができた点は、今後に向けて大きな財産になるものと考えられる。特に、来場者アンケートにおいて、北九州市民等のホスピタリティに対して高い評価を得た点は、北九州市の今後のまちづくりを考えていく上で重要なポイントになるのではないかと考えられる。

一方、来場者アンケートでは、福岡県外からの来場者のうち北九州市内に宿泊した回答者が約 30%、北九州市内で観光・買い物をした回答者は約 40%に止まる。大規模集客イベント開催時の地域経済への波及効果の拡大の観点からみると、北九州市外からの来場者が北九州市内で滞在型の観光を行ったり、積極的に飲食などの消費活動を行ったりする仕組みをより一層強化していくことが課題であると言えよう。こうした仕組みづくりに際しては、下関市などの周辺市町村との広域連携の強化も一層重要となる。

B-1 グランプリ in 北九州に関する開催地としての経験を一過性のものとして終わらせることなく、今後の北九州市のまちづくりの様々な場面において活用していくことが課題と言えよう。

(都市政策研究所 准教授)

謝辞

本研究は、B-1 グランプリ in 北九州実行委員会事務局からの要請を受けた筆者が、北九州市立大学都市政策研究所の地域課題研究として取り組んだ結果をとりまとめたものである。来場者アンケートの実施に際しては、ボランティアの調査員として福岡ひびき信用金庫の職員の皆様延べ約 80 人（2 日間）に御協力いただいた。アンケートに回答いただいた来場者の皆様および福岡ひびき信用金庫の職員の皆様に深謝する。また、経済波及効果の推計に際しては、B-1 グランプリ in 北九州実行委員会事務局から一部データの提供を受けた。その他、本研究の実施にあたり御協力いただいた全ての皆様に深謝する。

〔注〕

- 1) 「B-1 グランプリ」は、一般社団法人 B 級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（通称：愛 B リーグ）の登録商標である。
- 2) 北九州市総務企画局シティプロモーション部「平成 24 年度「北九州市制 50 周年事業予算」（2012 年 2 月 13 日）においては、2012 年度予算として「B-1 グランプリ in 北九州事業」（予算額 7000 万円）を位置づける理由として、この二点を挙げている。
- 3) ここでは、来場者アンケート結果や大会主催者の財務データ等のことを指す。
- 4) 「B-1 グランプリの特色」については、南（2013）を再構成したものである。
- 5) ここで俵が言う「現地」とはイベント会場（2012 年の場合は北九州市）の事ではなく、例えば「八戸せんべい汁研究所」であれば八戸市、「甲府鳥もつ煮でみなさまの縁をと

りもつ隊」であれば甲府市のことを指す。イベントをきっかけに、愛 B リーグ加盟の各団体（イベント出展者）の地元を訪れてもらう事を企図している。

- 6) 俵（2011）によると、B 級ご当地グルメの定義は「安くてうまくて地元で愛されている地域独特の食べ物」[俵、2011：5]である。愛 B リーグは「B 級ご当地グルメ」という用語に理念を持っており、B-1 グランプリで扱っているのは「B 級グルメ」ではない、としている。同法人 Web サイトでは、「B 級ご当地グルメ」というワードで大切なのは「ご当地グルメ」の部分であり、「B 級グルメ」を売りたいわけではありません。」としている。
- 7) 例えば、第 6 回（B-1 グランプリ in 姫路）や第 7 回（B-1 グランプリ in 北九州）においては、開催会場について、公共交通機関での来場が容易なエリア内で複数会場に分けて実施し、会場間に位置する市街地を多くの来場者が周遊する仕掛けが用いられた。
- 8) 回答者の居住地に関する比率を、B-1 グランプリ in 北九州の来場者（2 日間のべ 61.0 万人）に当てはめると、北九州市内からの来場者約 37 万人、北九州市を除く福岡県内からの来場者約 14 万人、福岡県以外からの来場者約 10 万人となる。
- 9) 金額を自由記入で求めた結果から平均金額を算出する場合、無記入の回答の扱いについては二つの方法が考えられる。一つは、無記入の場合は平均算出から除外する方法である。もう一つは、本研究で用いたように無記入の場合は「0 円」の支出として扱って計算する方法である。後者の場合、平均金額が過大に算出されることを回避する効果があるため、本研究ではこの計算方法を採用した。
- 10) 調査票では、回答者にわかりやすいように「出展団体」ではなく「店舗」という表現を用いた。
- 11) 一次波及は直接効果に要する原材料等の生産等、生産の誘発を指す。二次波及は直接効果と一次波及効果によって生じた雇用者所得が消費にまわされることによって生じる生産の誘発を指す。
- 12) 産業連関表は 5 年ごとに作成されるものであり、2013 年 1 月時点では「平成 17 年表」が最新のものである。
- 13) 推計に使用する「来場者アンケートから求めた平均消費額」の妥当性については、北九州市（2012）「北九州市観光動態調査（平成 23 年次）報告書」における観光客消費単価との比較によって検証した。本推計で用いた平均消費額について、例えば市内宿泊客の平均消費額（合計）は¥17,744（ただし B-1 会場内での飲食費を除く）であり、この金額は、「北九州市観光動態調査（平成 23 年次）報告書」における北九州市内の宿泊観光の消費単価（¥16,991～¥20,310）の範囲内となっている（別表 1）。B-1 グランプリへの来場者は飲食費への支出ウエイトは高くなると考えられるが、旅行一回あたりの支出総額が「通常の観光活動」より大幅に変化するとは考えにくい。そのため、来場者アンケートから求めた平均消費額の使用は実態を的確に反映している可能

別表 1 本推計で用いる平均消費額と、北九州市の類似調査における消費額との比較

		B-1グランプリin北九州の 来場者アンケートから求めた 一人あたり平均消費額 (本研究での経済波及効果推計に使用)			北九州市観光動態調査(平成23年次)報告書 観光客消費単価			
		日帰り客等	市外宿泊客	市内宿泊客	観光		行祭事・イベント	
					日帰り観光	宿泊観光	日帰り観光	宿泊観光
1	会場内での飲食・土産購入費のうち、北九州市内での経済効果試算対象となる費用	単価を使用する推計ではなく、消費実績および支出実績から概算			-	-		
2	会場外での飲食費	¥674	¥2,440	¥2,920	¥1,215	¥3,714	¥1,000	¥5,000
3	会場外での土産購入費	¥186	¥1,240	¥524	¥830	¥2,149	¥500	¥4,120
4	会場外での観光施設入場料等	¥76	¥1,468	¥688	¥1,118	¥975	¥0	¥230
5	交通費 (北九州の場合、市内支出)	¥502	¥9,848	¥4,142	¥1,000	¥2,178	¥520	¥1,160
6	宿泊費	¥0	¥0	¥9,470	¥0	¥7,975	¥0	¥9,800
	合計	¥1,438	¥14,996	¥17,744	¥4,163	¥16,991	¥2,020	¥20,310

性が高く、推計に使用する妥当性が高いと判断した。

- 14) 会場内におけるイベントチケット購入費は、形の上では「北九州市内での消費」となるが、イベントチケットの売上金の配分方法を勘案すると、それをそのまま北九州市の産業連関表に投入して経済波及効果を算出することは適切ではないと考え、本研究においては北九州市内の各種組織、出展団体等に対して支出されたと考えられる金額に絞り、直接効果額に計上することとした。なお、こうした処理を行うことにより、経済波及効果が実態よりも過大・過小となることを防いでいる。
- 15) 1963年2月10日に門司市、小倉市、若松市、八幡市、戸畑市の5市が合併して北九州市が発足し、2013年2月10日には北九州市制50周年を迎えた。それを記念して、北九州市では「わがまち・北九州市への誇りを胸に、輝く未来に向かって、新たな一歩を踏み出そう!」をコンセプトとし、2012年度から2013年度にかけて様々な市制50周年記念事業・関連事業が展開されている。

〔参考文献〕

- 秋吉一郎 (2012) 「B-1 グランプリ in 姫路の観光消費による経済波及効果の推計」、兵庫県立大学『商大論集』64(1)、pp.57-75.
- 北九州市 (2012) 「北九州市観光動態調査(平成23年次)報告書」.
- 厚生労働省 (2012) 「平成23年度 衛生行政報告例」.
- 総務省 (2011) 「緑の分権改革の推進に係る取組の経済効果等の分析に関する調査業務報告書」.
- 総務省 (2012) 「家計調査年報(家計収支編)平成23年」.
- 俵慎一 (2011) 『B級ご当地グルメでまちおこし』、学芸出版社.
- B-1 グランプリ in 姫路実行委員会 (2012) 「B-1 グランプリ in 姫路実施報告書」.
- B-1 グランプリ in 北九州実行委員会(2012)「B-1 グランプリ in 北九州公式ガイドブック」.
- B-1 グランプリ in 北九州実行委員会 (2013) 「B-1 グランプリ in 北九州事業報告書」.

南博（2013）「「B-1 グランプリ in 北九州」は何をもたらしたか」、国際東アジア研究センター『東アジアへの視点』24(1)、pp.58-62.

一般社団法人 B 級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（愛 B リーグ）Web サイト
<http://b-1grandprix.com/> （2013 年 1 月 31 日時点）.

国土交通省国土地理院 Web サイト「電子国土 Web システム（電子国土ポータル）」
<http://portal.cyberjapan.jp/> （2013 年 1 月 31 日時点）.